

平成28年度 第3回 下松市地域公共交通活性化協議会

会議録

○日時：平成29年1月20日（金）10:00～11:30

○場所：下松市役所 1階 103会議室

○出席者

委員：18名（欠席3名）

棟近委員、寶迫委員、河内委員、弘委員、清水委員、田中委員、網本委員、池田委員、宗像委員、手嶋委員、丹後委員、西村委員、古本委員、永田委員、古田(健)委員、今井氏（浜口委員代理）、安野委員、金織委員

事務局：企画財政課、株式会社バイタルリード

○次第：1 開会

2 議事（1）下松市地域公共交通網形成計画素案について

3 その他

1 開会

2 議事

(1) 下松市地域公共交通網形成計画素案について

発言者	発言要旨
会長	事務局から議事について説明していただきたい。
(事務局より素案第3章以降について説明)	
事務局	事前に送付した素案について各委員からいただいた意見があるので、まずは、その意見と対応について説明する。(事務局の対応は「→」以降に示す) ・P19～：マスタープランのシンボルラインの定義が分かりにくい。 →P15 の総合計画の図で示しているのだからこれ以上の表記は不要と考える。最終的に案を見直し、少し分かりにくいということであれば「P15参照」等注釈を付記することを検討する。 ・P21：第三次ふくしプランくだまつの部分は空欄なのか →関連事項があるので、反映作業中である。 ・P30：「事業⑧サービス内容に関する情報提供の充実」について具体的に示せないか。 →P38 で具体的に示しているのだから、このままでよいと考えている。 ・P32：「事業②適材適所による支線サービスの見直し・新規導入」について、実施主体に「市民」とあるが、市民が何をするのか分かりにくい。 →市民とワークショップ等で意見を聞き一緒に考えるという意図で入れているが、この事業だけでなく全般に言えるため誤解を招かないという意味からも「市民」を削除する。 ・P34：「事業③市街地の主要施設を回る新規バス路線の導入」について、実施主体に「沿線事業主体」とあるが、事業概要のなかで何をするのか分からない。

→あまり関連が強くないので削除する。P35「事業⑤主要な駅やバス停等の待合環境の整備」において商業施設内に待合所を整備することが想定されるため、こちらに「沿線事業者主体」を入れる。

・P34：「事業④幹線と支線の乗り継ぎダイヤの調整」について、「ダイヤ改正に関する情報を事前に事業者間で共有する仕組み」とあるが、消費者へ対するサービス内容を事業者同士が話し合っただけで決めることは、独占禁止法で規制されているので、公正取引委員会へ確認が必要。  
→基本的には超広域とも言える JR ダイヤを基本にバスダイヤ調整するという想定していたが、運輸局の意見を確認しつつ、交通事業者と調整しながら表現を検討する。

・P39：「事業⑨運賃負担の軽減策の検討」について、「著しい減収が発生しないように条件を設定し、役割分担等を決めた上で運賃負担軽減実験を実施し」とあるが、具体的にどのように役割を分担するのか。  
→対象路線の選定や減収の一部補填等を検討した上でということを追加する。

・P47：「目標 1-1 日常生活における移動利便性を高める」の目標値 22.0%（鉄道・バスなどの公共交通の充実に関する施策に満足・まあ満足と回答した市民の割合）について

→目標値の22.0%は総合戦略で出されている数値である。H27年10月に総合戦略が、半年後のH28年3月に基本計画が策定されている。基本計画が市の最上位計画であることと、この半年間の間に目標値が上方修正されたということから、先ほどバイタルリードから説明があったように基本計画にある目標値25.0%に修正する。

・言葉や表現についての複数の指摘

→ご指摘のとおり対応または再調整する。

・P34：「事業④幹線と支線の乗り継ぎダイヤの調整」について、ダイヤの調整方法は、等間隔運行と JR との乗継ではどちらを重視するのか。またそれにより、どれくらい運行本数が増えるのか、駅前のキャパシティは十分にあるのか。

→再度関係者で調整する。

・駅に障害者や乳幼児、健常者用のトイレの設置についても入れてほしい。駅近くで障害者等が快適に待ち時間を過ごせるような対応はできないか。

→P37 の「事業⑦車両や施設等のバリアフリー化の推進」で押さえていきたい。

・（ご意見）米川あったか便のような仕組みをほかでもできないかという意見がある。住み慣れた地域で安心して過ごしたいという声に対し、社協としても協力したい。

・全体：「周南市」「徳山」という表記が混在している。

→整合性がとれるよう再確認する。

	<p>その他、言葉は修正する。P30 に「適材適所」という表現をしているが、もともとこの言葉は人に対して使うものであるので、表現方法を検討する。事前にいただいた意見は以上である。</p>
会長	<p>それでは質疑に入る。素案 P25 までについて意見はないか。</p>
委員	<p>P15 のシンボルラインを説明している図でゾーン別に色分けがしてあるが、同ページの表も同様に色付けしてはどうか。また、図はもう少し地域が分かるものがよいのではないか。</p>
事務局	<p>この図と表はマスタープランから引用しているものである。見やすくなるよう可能な限り対応する。</p>
会長	<p>ほかに、素案第 4 章計画の基本理念・基本方針と目標についてご意見はないか。</p>
	<p>(意見なし)</p>
会長	<p>ないようであれば、素案の第 5 章目標を達成するために行う事業とその評価方法、P30～45 までについて意見はないか。</p>
委員	<p>戻って申し訳ないが、P21 の第三次ふくしプランくだまつの表が空欄になっているが、このままなのか。</p>
事務局	<p>現在反映作業中である。</p>
委員	<p>P35 : 「事業⑤主要な駅やバス停等の待合環境の整備」の事業概要について、費用対効果を踏まえ優先順位をつけるという表現になっている。費用対効果となると利用者が多いところとなるが、高齢者や障害者など必要度の高い人が多く使うという視点も入れるなど高齢者や障害者にも配慮したという表現も入れてほしい。</p> <p>P37 : 「事業⑦車両や施設等のバリアフリー化の推進」も同様である。</p> <p>資料 2 : 全体的な指標の鉄道の目標利用者数について、例えば山陽本線は現状 834,482 人で増加目標が 22,140 人だが、単純に足すと 85 万いくらになるのだが、このように単純に足してはいけないのか。</p>
事務局	<p>基本的には需要が高い場所が優先だが、言葉がこのままでいいのか、ご指摘のような視点も必要だと思うので言葉を再検討する。</p>
事務局	<p>資料 2 の目標値については、まず 1 ページ目の下の表の既存トレンドの行をご覧いただきたい。例えば、山陽本線は H27 年度の 834,482 人が現状値で、今のまま利用する場合、人口減少分を加味すると H33 年度に 822,488 人になる見込みになっている。それに、利用していなかった人が年に 1 回利用するという追加目標 22,140 人を加えた値を目標値として設定している。</p>
会長	<p>P31 からの個別事業について意見、質問はないか。</p>
委員	<p>先ほどの説明の中で、個別事業の協議は今からという話があったが、今からというか、まったく話ができていない状態である。できるかどうかとも分からないのにすでに素案に掲載されているが、このまま進めていいのか。</p>
事務局	<p>パブリックコメントの前には個別に協議させていただきたい。公開してもよいという合意を得た上で素案として出すので、協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>この素案は、関係する事業者等との話をするためのたたき台で、事業</p>

	者等との協議の後で変更した部分については協議会で諮るという段取りか。
事務局	パブリックコメントに出す前に会議で諮りたいと考えている。
会長	事業者等との個別協議をしたうえで、第4回の協議会でさらなる案を出すということか。
事務局	スケジュールの話が出たので説明させていただく。パブリックコメントの前にあらためて協議会を開催することを考えている。地域協議や関係者協議がまだ不十分の状況であり、4月以降に策定がずれ込む可能性があることをご承知おきいただきたい。
会長	この事業は平成28年度の事業だが、次年度に繰り越して煮詰めていきたいということである。お手をかけるが、ご了承願いたい。個別協議ではご意見をいただきたい。
委員	P44:「⑭沿線事業主体との協働によるサービス向上の推進」について、ぜひ全国の多くの事例を見たい。それを基に検討したい。 P43:「⑬目的地限定輸送サービスとの統合検討」について、観光強化ということで大城も少し触れられているが、新しい取り組みができればと思う。これについても全国の事例を教えてください。 P39について質問だが、久保からは下松駅に行くより徳山駅へ行く方がバス運賃は安いのか。知らなかった。
会長	全体を通してご意見はないか。
	(意見なし)
(事務局より資料1をもとに説明)	
事務局	先ほどの説明について補足する。交通事業者との協議はこれからであり、まだされていないという状況である。計画なので、こうなればいいということ表現するものであるが、事業者と協議をしてある程度現実味のあるものにしないといけないと考えているので、今後変わる可能性があることをご承知いただきたい。
会長	今の案についてご意見はないか。
委員	市街地循環線についてはまだ協議が整っていない状況である。バスは街中の短距離利用が多い。そのような中、循環線を作るということは、特に均一運賃や低額運賃に設定されれば、既存バス路線の利用者は減り、収支が合わなくなれば地域にバスが行かなくなる可能性も出てくることをご理解いただく必要があるかと思う。だからと言って循環線がだめということではない。既存のバスと循環線がどう連携し、それぞれどう意味を持たせて活かしていくのか、しっかりと考え作り上げることは可能かとも思う。どういう路線にするのかまだ漠然としていると思うので、資料には案1、2とあるが、計画書にも案をそのまま複数載せておくというのでもいいのではないかと。P33にも1つの案を掲載してあるとそれで実施しないといけなくなるので、漠然とした案をいくつか載せておいていいのではないかと思う。
会長	P33に具体案があるが、資料1の図を持ってくるというイメージか。バス停や運賃、経費などのこともあるので、防長交通の意向を聞きながら綿密に協議を行い、進めていきたい。 ほかにないか。

	本日はいろいろなご意見をいただいた。それを踏まえてこの計画を煮詰めてまたお示ししたいと思う。以上で本日の質疑は終了する。事務局から連絡等はないか。
事務局	今後のスケジュールについて連絡する。次回は3月開催を目標としている。開催できない場合も最新のスケジュールをお示しする。